



誠風中だより

令和8年9月29日

No.7

[泉大津市立誠風中学校ホームページ](http://www.seifu-jhs.ac.jp/)



学校ホームページ
(QRコード)

めざす生徒像：「自律」と「尊重」と「創造」の身についた生徒

「自律」自ら考え、自分で判断し、自分で決定し、自ら行動できる力 ・ 「尊重」多様性を受け入れ、対話を通して対立やジレンマを解決する力 ・ 「創造」問題を解決するために情報や技術等を活用し、新たな価値を生み出す力

★令和8年度 全国学力・学習状況調査結果と分析について（ご報告）

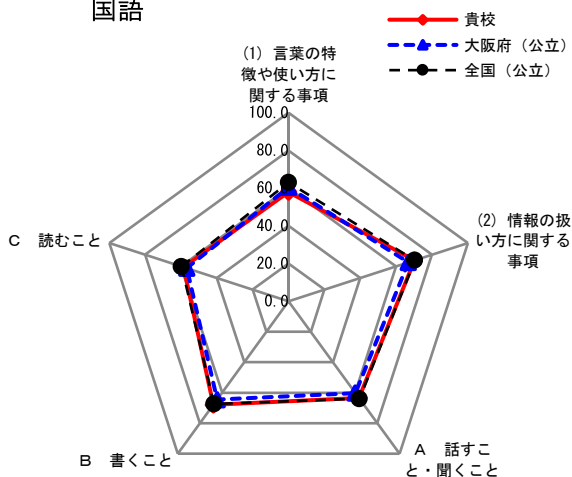
令和8年4月23日に実施された全国学力・学習状況調査の結果と分析についてお知らせします。

全国学力・学習状況調査は3年生が対象で、国語、数学、そして3年に一度の英語、また学習や生活の様子を尋ねるアンケート（生徒質問紙）が実施されました。

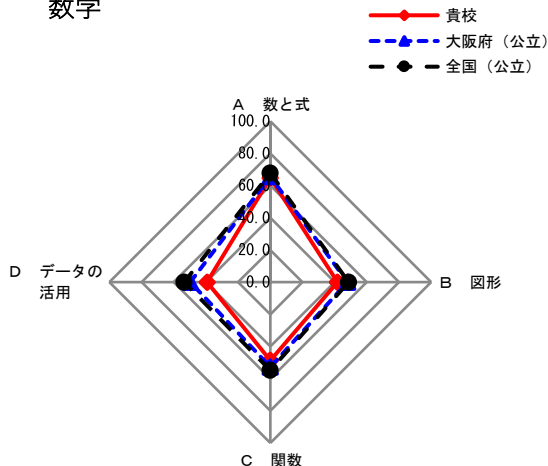
【全国学力・学習状況調査結果】

各教科の平均正答率について、国語は、大阪府平均（公立）を上回り、数学・英語については、大阪府平均（公立）・全国平均（公立）を下回っていました。下の図は各教科の学習指導要領の内容の平均正答率の状況、英語についてはIRT分布状況を示しています。

国語

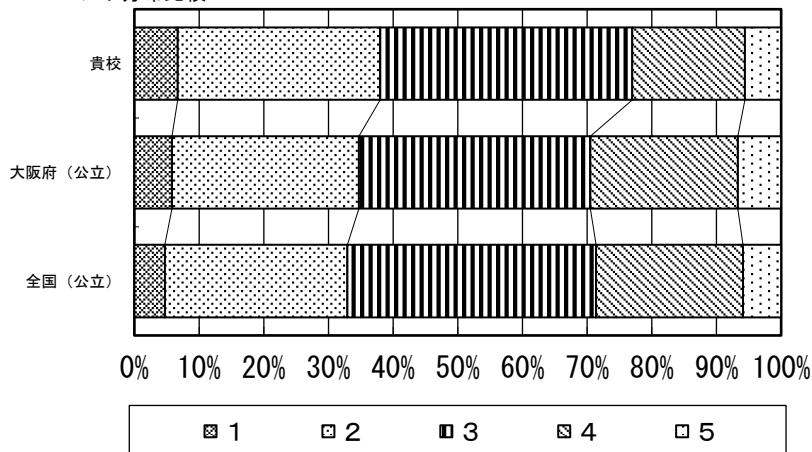


数学



英語

IRTバンド分布比較



※中学校英語は ICT 端末等を用いた、文部科学省 CBT システム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施されました。

※IRT とは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRT バンドとは IRT スコアを基に、学力を1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

【調査等結果の分析及び考察】

【国語】

今年度の全国学力学習状況調査では、大阪府の平均正答率を 1 ポイント上回り、全国を 1.9 ポイント下回りました。

「思考・判断・表現」を評価の観点とする問題において、大阪府を上回っており、「記述」においても、全国・大阪府より良好な結果が得られました。これまで、授業の終わりに振り返りを書く時間を設けてきました。また、書いたものをフィードバックする取り組みが成果につながりました。

一方、「知識・技能」を評価の観点とする問題において、文章中の語彙の意味を正確にとらえていないことに課題が見られました。

今回課題が見られた「知識・技能」について、語彙・文法・漢字指導を読解活動と関連づけながら充実させていきます。また、会話文や資料を活用した学習活動を通して、情報を整理・比較する力、自ら読み解き根拠を持って表現する力の向上を図ります。

○成果が見られた問題

教科	問題番号	平均正答率（％）			無解答率（％）	問題の概要	出題の趣旨
		誠風中	大阪府（公立）	全国（公立）			
国語	2四	55.5	47.4	52.7	11.0 (14.7)	話し合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる
国語	4四	37.7	34.6	38.9	15.7 (18.6)	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く	文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる

●指導の改善が求められる問題

教科	問題番号	平均正答率（％）			無解答率（％）	問題の概要	出題の趣旨
		誠風中	大阪府（公立）	全国（公立）			
国語	1二	62.8	69.5	70.2	0.0 (0.3)	「投げられる」を説明したのとして適切なものを選択する	単語の類別について理解しているかどうかをみる
	3一	25.1	34.4	39.8	0.0 (0.3)	文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する（とる）	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる
	4二	36.6	32.9	35.2	22.5 (19.8)	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる

具体的な設問例 大問 4 二

国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す。



指導改善のポイント

語句の文脈上の意味を捉えることの指導に当たっては、まず、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的に1つ1つ個別に捉えることが大切である。その上で、語句に着目し、その語句が文や段落においてどのような役割を果たしているかを捉え、さらに、それらの語句と語句との関係を考えることが重要である。

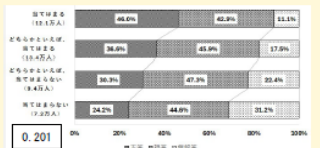
クロス集計 生徒質問調査 × 本設問の正答率

生徒質問調査【31-1】
「読書は好きですか」の各選択肢を選んだ生徒の本設問における解答状況

この質問に肯定的に回答したグループの方が、本問の正答率が高く、無解答率も低い。

解答の分析 無解答率 19.5%

正答例 正答率 35.5%	○「ありありと映し出している」 ○「心に思い描く」 ○「包括的に言んだイメージを得る」
誤答例	本文中から、上記 1、2 以外の表現を抜き出して、解答しているもの …39.7% ●「ありありと」「包括的に」「イメージ」のみを解答しているもの →「国語辞典に載っていた意味」から「はっきり」「おぼろげ」など「ほうふつ」の意味の一部だけを捉えて解答したものと考えられる。 ●「たくさんの意図を託している。」 →「ほうふつとさせる」の文脈上の意味を捉えず、⑥段落から同じような内容を表す別の表現を捉えることができなかったと考えられる。



【数学】

今年度の全国学力学習状況調査では、大阪府の平均正答率を5ポイント、全国を7ポイント下回りました。

「数と式」の領域では、基礎的な計算や数量関係を捉える力に強みが見られました。

一方で、「同類項」「平行になるための条件」「累積度数」など、基礎的な知識・技能を問う問題で課題が見られました。また、数学的な考え方や判断の理由を説明する記述問題にも課題が見られました。

今後は、日々の授業を通して、基礎的な知識・技能の確実な定着を図り、既習事項を活用できる力を育成します。さらに、文章や資料を読み取る活動を充実させ、数学的な読解力を高めていきます。授業では、自分の考えを式や言葉で説明する場面を意図的に設定し、あわせて、学習内容を振り返りながら活用する学習を進め、思考力・判断力・表現力の向上を図ります。

○成果が見られた問題

教科	問題番号	平均正答率 (%)			無解答率 (%)	問題の概要	出題の趣旨
		誠風中	大阪府 (公立)	全国 (公立)	誠風中 (全国)		
数学	6(1)	74.3	69	73.2	8.4 (6.6)	選んだ2数が3と6のときについて、陸斗さんの予想が成り立つことを示す式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかをみる

●指導の改善が求められる問題

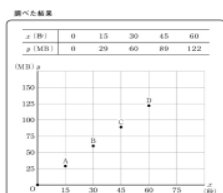
教科	問題番号	平均正答率 (%)			無解答率 (%)	問題の概要	出題の趣旨
		誠風中	大阪府 (公立)	全国 (公立)	誠風中 (全国)		
数学	2	61.8	69.5	70.5	3.1 (2.2)	$7x + 9 - 5x + 7x^2 + 2x$ から、 $7x$ の同類項をすべて書く	同類項の意味を理解しているかどうかをみる
	3	40.8	49.7	49.1	5.8 (2.8)	四角形PQRSにおいて、 $PS \parallel QR$ を示すための根拠となる二つの角を書く	2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる
	7(2)	26.2	31.6	33.9	48.7 (39.6)	データ量が1000MBになるときの動画の時間がおおよそ何秒になるかを求める方法を説明する	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる
	9(3)	21.5	27	31.9	41.4 (28.9)	「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、悠真さんが調べたことの二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる

具体的な設問例 大問7(2)

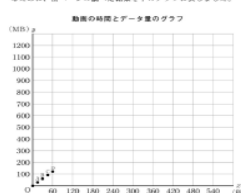
データ量が1000MBになるときの動画の時間がおおよそ何秒になるかを求める方法を x や y を使って記述して説明する。

⑦ 先生さんのクラスでは、クラス用パソコンで動画を撮影することになりました。撮影する動画のデータ量は1000MBまでにすることになっています。

そこで、動画の時間によってデータ量がどのくらいになるかを調べたのに、同じ長さでも何秒かは差が出て動画を撮影し、動画の時間とそのデータ量を記録しました。そして、動画の時間と、そのときのデータ量を対比して、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。



⑧ 先生さんは、1000MBのデータ量で撮影できる動画の時間を調べ、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。



動画の時間とデータ量のグラフにおいて、点Aから点Dまでの直線が直線になること、動画の時間を t とすると、動画の時間とデータ量の関係を比例する点が見つかることに気づきます。このとき、データ量が1000MBになるときの動画の時間をおおよそ何秒になるかを求める方法を、お友達や先生、お父さんやお母さんに説明し、納得しなさい。ただし、実際に時間をおおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

指導改善のポイント

数学的な説明ができるようになるために、まずは、問題解決の見通しを立てる場面において、自分の考えた解決の方法を表現してみることや、問題解決を振り返る場面において、どのような方法で解決したのかをまとめてみるということが大切である。そのような活動を繰り返す中で、表現が不十分な説明を取り上げるとして、より洗練された表現に高めていくことが考えられる。

学習活動の例

「令和8年度【中学校数学】報告書」大問7 学習活動の例
https://www.nier.go.jp/26chohousaikkahoukou/report/data/26mmath_idea_07.pdf#page=8



解答の分析

無解答率39.0%

正答の条件 ・正答率 (正答率34.5%)	<グラフを用いる場合> 次の(a)、(b)について記述しているもの。 (a) 直線のグラフを利用すること。 (b) y座標が1000のときのx座標を読むこと。	・原点Oから点Dをもとに、直線のグラフをかき、y座標が1000のときのx座標を読む。
	<式を用いる場合> 次の(c)、(d)について記述しているもの。 (c) 比例の式又は一次関数の式を求めて利用すること。 (d) $y = 1000$ を代入して、 x の値を求めること。	・ x と y の関係を比例の式で表し、その式に $y = 1000$ を代入し、 x の値を求める。
誤答例	<表や数値を用いる場合> 次の(e)、(f)について記述しているもの。 (e) 表や数値を用いて割合を求めて利用すること。 (f) データ量が1000MBのときの動画の時間を算出すること。	・表の x と y の数値から比例定数を調べ、その比例定数で y の値が1000になるときの x の値を求める。
	・点Oと点Dを直線で結んで求める。 ・ x と y の関係を比例の式で表す。 ・1MBあたりの動画の時間を求める。	○誤答例の解説 誤答例のように、グラフ、式、表や数値を用いることについて記述しているが、その用い方を明示して説明することができなかった生徒が14.3%いた。

【英語】

今年度より全国学力学習状況調査英語では、タブレット端末を用いて調査が行われました。IRT バンド分布比較から大阪府、全国より下回っていることがわかります。

「聞くこと」の領域に強みがあり、日常的なコミュニケーションに関する内容には比較的よく対応していました。これは、昨年度9月から配置されている常勤のALT（JET）の先生と日ごろからふれあっている成果と捉えます。

一方で、まとまりのある文章を読むことや、読んだ内容を基に自分の考えを英語で表現することに課題が見られました。無回答率が低く正答率につながらない記述問題もあり、英単語の定着に課題が見られました。

今後は、まとまりのある英文を読む機会を増やし、内容を正確に読み取る力を育成します。あわせて、定型表現を活用しながら理由や考えを英語で表現する練習を継続し、日常の出来事や自分の考えを話したり書いたりする活動を充実させます。

○成果が見られた問題

教科	問題番号	平均正答率（％）			無解答率（％）	問題の概要	出題の趣旨
		誠風中	大阪府（公立）	全国（公立）			
英語	3	80.3	74.6	76	0.0 (0.1)	学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる

●指導の改善が求められる問題

教科	問題番号	平均正答率（％）			無解答率（％）	問題の概要	出題の趣旨
		誠風中	大阪府（公立）	全国（公立）			
英語	7	62.1	69.7	72.4	0.0 (0.1)	誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる
	9	38.2	49.3	49	0.0 (0.1)	物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する	日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかをみる
	10(2)	19	27.6	27.8	26.7 (14.6)	インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる
	12	33.3	43.7	47.5	20.3 (8.7)	中学生になってからの思い出を1つ取り上げ、そこで体験したことと感想を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる

具体的な設問例

12

中学生になってからの思い出を1つ取り上げ、そこで体験したこととその感想を書く。

12

あなたは、中学生になってからの思い出(My Memory)を【英語新聞】にまとめることになりました。思い出を1つ取り上げ、「そこであなたが体験したことと感想」を、15語以上30語以内の英語で書きなさい。なお、思い出は下の【例】を参考にしてもかまいません。

【英語新聞】

My Memory

※ここには、あなたの思い出の
写真が入ります。



【例】

- ・ 学校行事
 - ・ 文化祭 (the school festival)
 - ・ 体育祭 (the sports festival)
 - ・ 音楽祭 (the music festival)
- ・ 修学旅行 (the school trip)
- ・ 職場体験 (the work experience)
- ・ 授業
- ・ 習い事
- ・ 趣味
- ・ 日常の出来事
- ・ その他

解答類型3に該当する生徒は、中学校での思い出を1つ取り上げ、そこで体験したこと（条件②）を書いているが、その感想（条件③）を書くことはできていない。

解答類型3の誤答例

・ My memory is the music festival. We sang a song. I was win the game in my class.
(文構造の誤り)

解答の分析

無解答率8.6%

正答の条件
・ 正答例

正答率
48.0%

- 条件①：
15語以上30語以内の英語
で書いている。
- 条件②：
中学校の思い出を1つ取り
上げ、そこで体験したこと
を書いている。
- 条件③：
条件②の感想を書いている。
- ・ I enjoyed the school
trip in June. I went to
Okinawa. I saw the
beautiful ocean. It was
great.

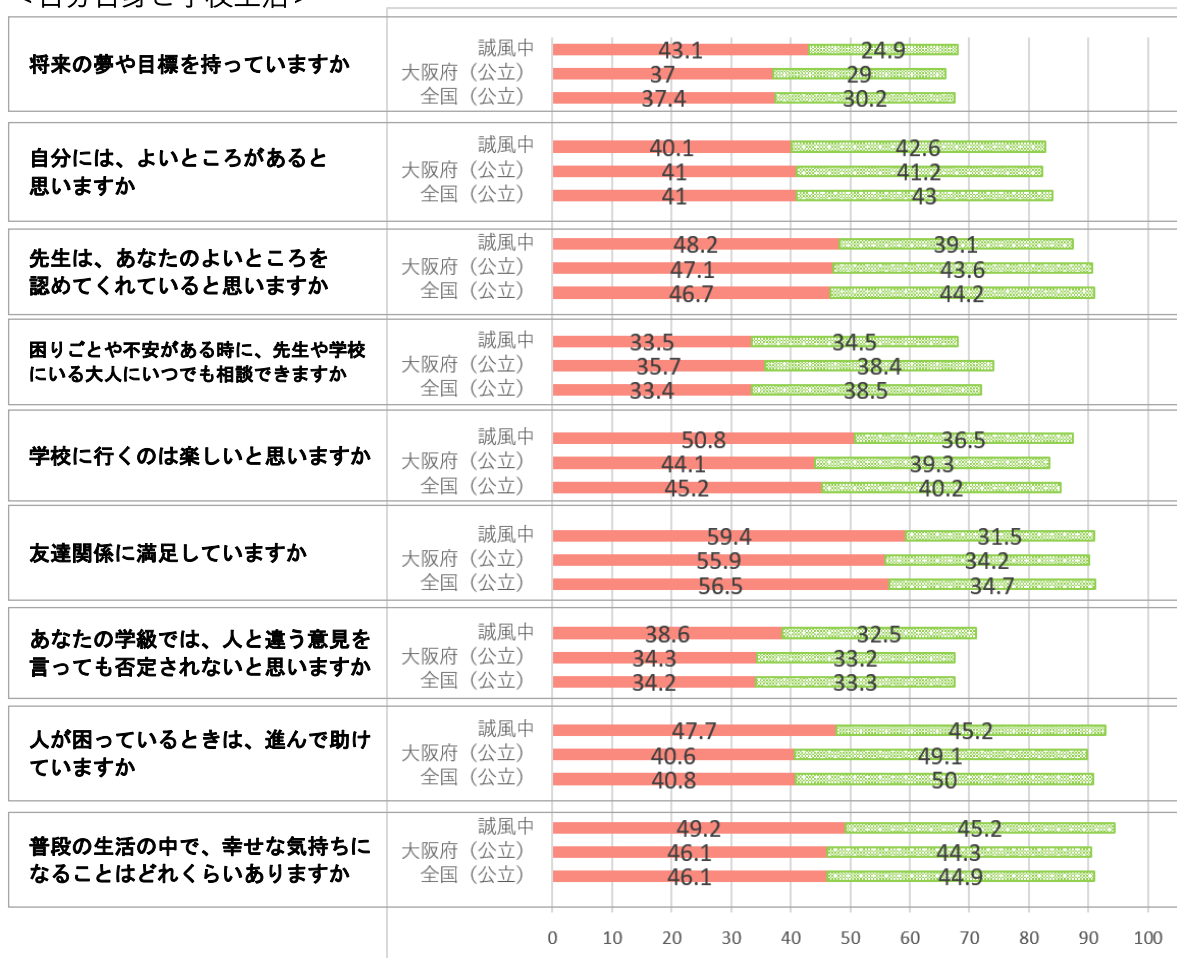
誤答例の解説

- 条件①、条件②を満たし、条件③を満たさないで
解答しているもの（解答類型3）・・・11.2%
- 条件①、条件②を満たし、条件③を満たさないで
解答しているもの（解答類型4）・・・3.7%
- 条件①を満たし、条件②、条件③を満たさないで
解答しているもの（解答類型5）・・・3.0%

【生徒質問紙の回答状況】

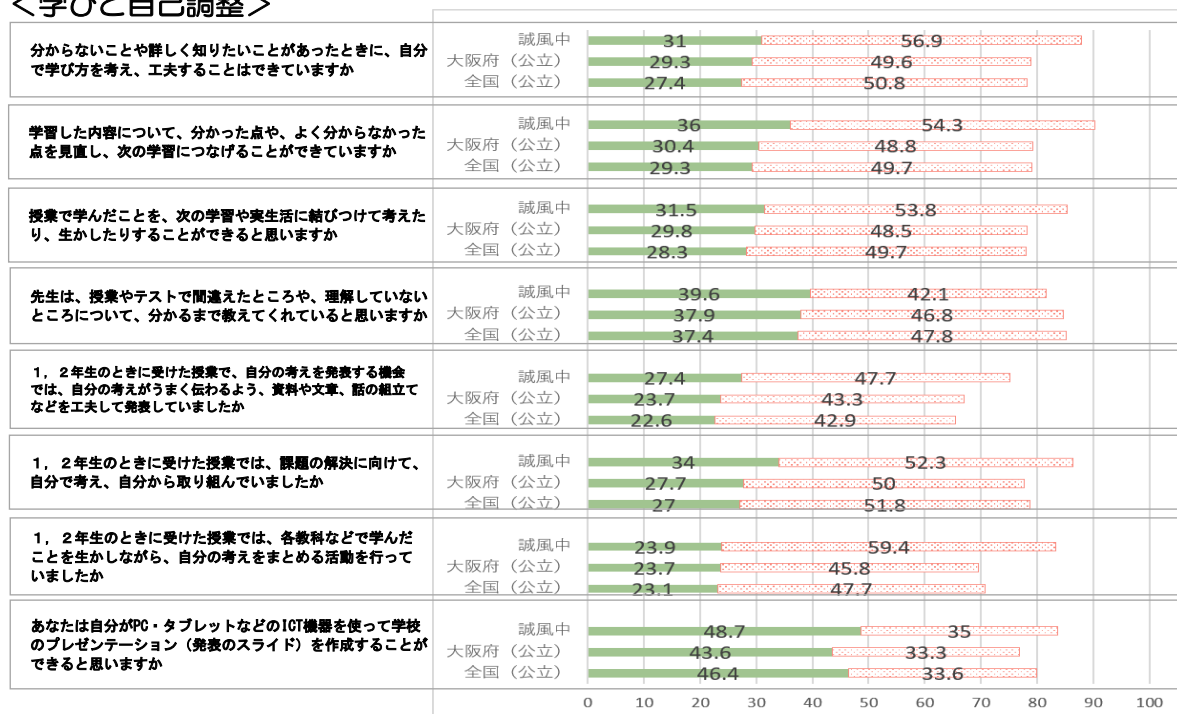
<自分自身と学校生活>

■ 強い肯定 ■ 弱い肯定



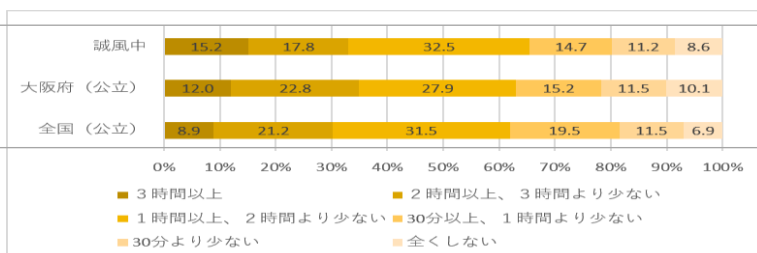
<学びと自己調整>

■ 強い肯定 ■ 弱い肯定

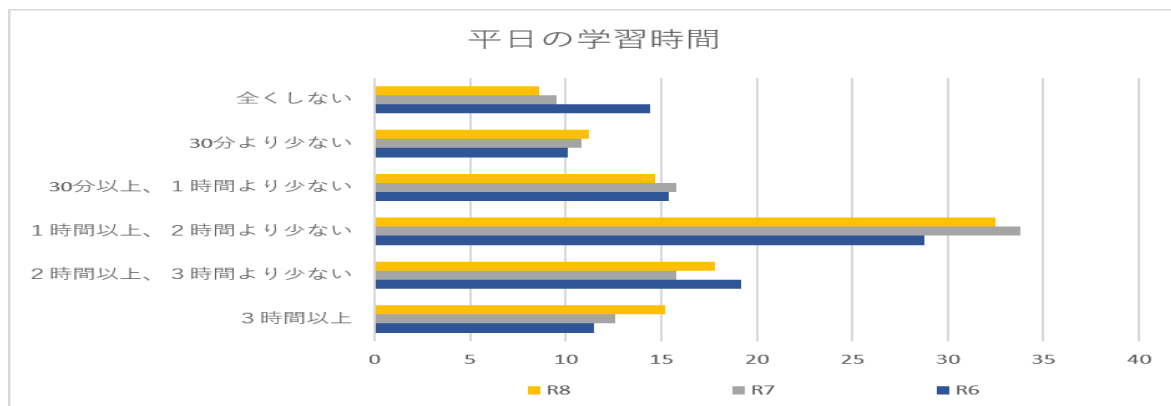


<学習時間>

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



《参考》学習時間に関する本校昨年度・一昨年度比較



<自分自身と学校生活>に関する項目から、学校生活において、友だちとの良好な関係である生徒が多く、安心して学校生活を送っている様子がうかがえます。

<学びと自己調整>に関する項目から、主体的に学びながら、工夫し、学んだことを次の学びに生かしていこうとする姿勢が見られました。

また、ICTを活用した学習においても、ICTスキルに自信を持っていることがわかります。

<学習時間>に関する項目や本校の昨年度・一昨年度との経年比較から、「全くしない」と回答する生徒は年々減少しています。

学習は時間の長さ（量）より内容（質）が大切ですが、「全くしない」と回答する生徒の減少は、学習の習慣化や継続性の点で重要です。

【総括】

本校では、生徒一人ひとりとの対話を大切にし、「自分はどうしたいのか」を考え、自ら行動する力（＝自律する力）を育んできました。本年度の調査結果からも、その成果が学校生活だけでなく学習面にも表れていることがうかがえます。3年生は、日々の授業や学校行事を通して主体的に学ぶ姿勢を身につけ、自ら成長しようとする力を伸ばしてきました。また、将来への夢や目標を持ち、周りの人とのつながりを大切にしながら、自分らしく前向きに生活する姿も見られます。これからの社会を力強く生き抜いていく力が着実に育っていることを、大変うれしく感じています。

今年度の調査結果を受け、今後、学校では、学んだ知識や技能を単に覚えるだけでなく、実生活やさまざまな課題の解決に生かすことができる「生きて働く力」として身につけられるよう、授業づくりを進めていきます。また、家庭学習についても、与えられた課題に取り組むだけでなく、自分に必要な学習内容や方法を自ら考えて選

また、学校では定期的に水曜日 6 時間目に補習学習をはじめとした個別学習「サポチャレタイム」を設けています。また、コミスク・みらい応援隊の方による「放課後自主学習教室」も実施しています。これらの機会を有効活用し自律的な学びを見出し、声をかけていきたいと思っています。

(後に記載の＜参考 1＞の左側を参照ください)

さらに、別の調査（OECD による PISA 調査 2025：世界 91 か国・地域の義務教育修了段階の 15 歳の生徒（日本では高校 1 年生）を対象）において、「**家庭による支援的なかわりの頻度**」の項目について、日本は OECD 平均より低いという結果が得られています。（＜参考 3＞上段を参照ください）

ご家庭におかれましても日々の対話を通してお子様の成長を支えていただきますようお願いいたします。

「SNSや動画視聴の長さ」と学力の関係

「ICTを活用する自信」と学力の関係

- SNSや動画視聴等の利用時間が長い児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが低い傾向が見られる。
- 一方で、ICTを活用する自信がある児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。
- これらの結果から、ICTを受動的に利用するにとどまらず、主体的・能動的に活用できるよう、授業等を通じた情報活用能力を育成することが、学力向上に寄与する可能性が示唆される。

児童〔4〕 生徒〔4〕 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますが（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間を除く）。

☐ 4時間以上 ☐ 3時間以上、4時間より少ない ☐ 2時間以上、3時間より少ない
☐ 1時間以上、2時間より少ない ☐ 30分以上、1時間より少ない ☐ 30分より少ない
☐ スマートフォン等を持っていない

小学校 中学校

※ 相関係数はスマートフォン等を持っていないの児童を除き計算

※参考（令和6年度までの調査結果）

児童質問 生徒質問 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますが（携帯電話やスマートフォンを使って学習やゲームをする時間を除く）。

☐ 4時間以上 ☐ 3時間以上、4時間より少ない ☐ 2時間以上、3時間より少ない
☐ 1時間以上、2時間より少ない ☐ 30分以上、1時間より少ない ☐ 30分より少ない
☐ スマートフォン等を持っていない

小学校 中学校

☐ そう思う ☐ どちらかといえば、そう思う ☐ どちらかといえば、そう思わない ☐ そう思わない

児童〔36-1〕 生徒〔36-1〕 タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書く など）ことができると思いますか

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTSコア

児童〔36-2〕 生徒〔36-2〕 インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTSコア

児童〔36-3〕 生徒〔36-3〕 タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使って）ことができると思いますか。

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTSコア

児童〔36-4〕 生徒〔36-4〕 タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTSコア

出典：国立教育政策研究所 令和8年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料

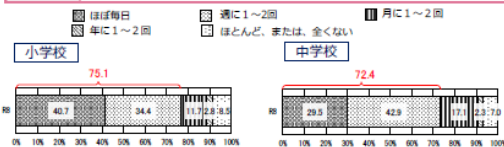
<参考2>

② 授業外（学校外）での学習環境

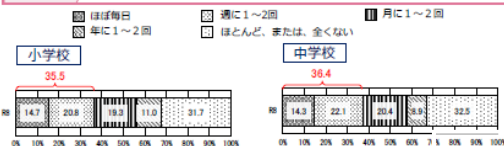
ポイント

- [p.72] 約7割の児童生徒が、週に1回以上、学校の勉強のことに親や家族と話している。また、約4割の児童生徒が、週に1回以上、学校での悩みについて親や家族と話している。
- [p.72] 学校の勉強のことを親や家族と話していると考える児童生徒ほど、「自分の理解を確認するために、学習したことを振り返る」と考える傾向があり、また、「普段（月曜日から金曜日）の授業時間以外の学習時間」が多い。

児童〔6〕生徒〔6〕 学校の勉強のことに、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか。【新規】



児童〔7〕生徒〔7〕 学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか。【新規】



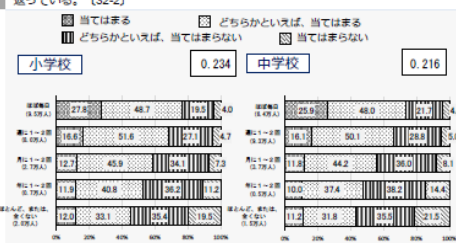
「学校の勉強のことを親や家族と話すと」の影響

クロス集計

（児童生徒）

【学校の勉強のことを親や家族と話すと】×【自分の理解を確認するために、学習したことを振り返る】

自分が理解したか、何が分かっていないかを確認するために、学習したことを振り返っている。【32-2】

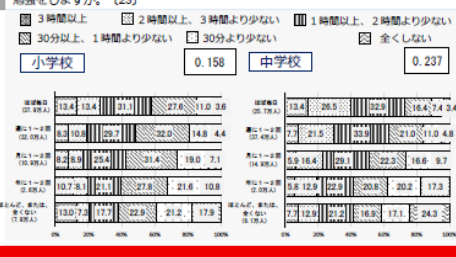


クロス集計

（児童生徒）

【学校の勉強のことを親や家族と話すと】×【普段（月曜日から金曜日）の授業時間以外の学習時間】

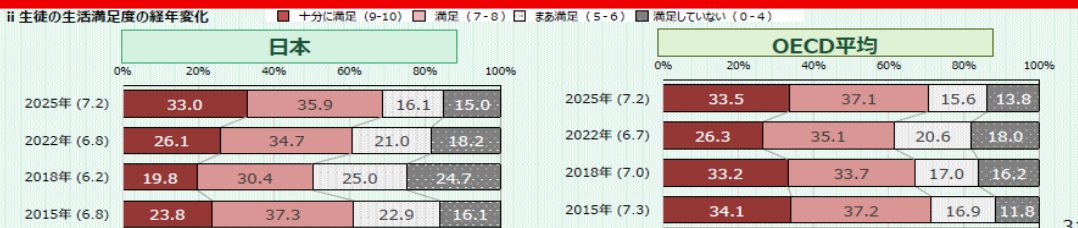
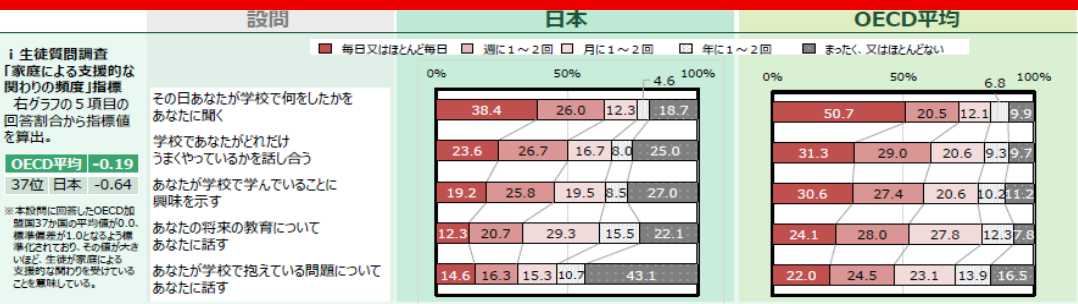
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。【23】



出典：国立教育政策研究所 令和8年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料②

<参考3>

- 「家庭による支援的な関わり頻度」指標について、日本はOECD平均よりも低い。
- 生徒の生活満足度は、「十分に満足」又は「満足」と回答した割合が、日本においては2018年に50.2%まで下がったものの、2025年には68.9%と2015年の61.1%よりも高い割合を示しており、OECD平均とおおむね同程度。



PISA2025について

- 91か国・地域から約76万人が参加。日本からは、全国の高等学校等の1年生のうち、国際的な規定に基づき抽出された183校、約6,500人が参加（2025年6月から8月に実施）。
- 中心分野は、科学コンピテンシー。革新分野は、ICTを活用した自律的な学習（自己調整学習）のプロセスを通して、問題解決し、その中で新しい知識を獲得できるかを調査するラーニング・イン・デジタルワールド（LDW）。
- オンラインによるCBTで実施。
※2000年～2012年は筆記型調査、2015年～2022年はUSBメモリを使用したオフラインによるCBTで実施。

出典：国立教育政策研究所 OECD 生徒の学習到達度調査 PISA2025のポイント